<平成30年度大阪府高等学校校外学習研究発表会開催概要>

日 時:平成30年5月25日(金)15:30~

場 所:大阪府教育会館たかつガーデン

発表校:大阪府立金岡高等学校

テーマ:「東北修学旅行」~民泊と震災学習~

●重点を置いた活動

現地で学ぶ生きた震災学習と農業体験を通した地元の方との交流

【実施要領】

旅 行 先: 岩手県(安比高原・奥州市)・宮城県(仙台市)

時 期:平成 29(2017)年9月29日~10月2日 実施学年:2年生10クラス396名引率者16名

(日程概要)

第1日目 9月29日(金)

大阪国際空港(伊丹空港)二便にて→仙台空港→松島遊覧船(震災学習)→ホテル(安比高原)

第2日目 9月30日(土)

安比高原にて体験学習(選択制)→奥州市にて入村式→各農家へ

第3日目 10月1日(日)

各農家にて家業体験

第4日目 10月2日(月)

退村式→中尊寺見学→仙台市内自由研修→仙台空港 二便にて →大阪国際空港(伊丹空港)

※詳細:月刊「教育旅行」2018年11月掲載

大阪府立 金岡高等学校

東北修学旅行〜民泊と震災学習

校長 宮根 隆



校舎外観

School Data

【創立年】昭和49(1974)年4月

【教育目標】前例にとらわれず「ゼロベース」で考え、失敗を恐れず、 失敗してもくじけず、失敗から学んで何度でも立ち上がり、勇気を持って前を向いて一歩を踏み出すことのできる生徒を育てる。

【全校生徒数】1073名(平成30年5月現在) 【教職員数】68名(平成30年5月現在)

学校紹介

大泉緑地の南に位置し、設立当時は周囲を水田とため池に設立された45年目を迎える学校である。本校は、政令指定都市堺市の住宅地の中に生徒数急増期に

があり、生徒は生き生きと活動している。校訓は克己である。大会に出場している。生徒の自主的な活動を重んじる雰囲気動・行事に熱心に取り組み、陸上部・ダンス部が近畿・全国動・行事に熱心に取り組み、陸上部・ダンス部が近畿・全国か毎日千台を超える自転車が校内に集まる。 出まれていた。近年は住宅が増えてきたものの、まだまだ自囲まれていた。近年は住宅が増えてきたものの、まだまだ自囲まれていた。近年は住宅が増えてきたものの、まだまだ自囲まれていた。近年は住宅が増えてきたものの、まだまだ自囲まれていた。近年は住宅が増えている。校訓は克己である。

実施要項

●旅 行 先 岩手県 安比高原·奥州市 宮城県 仙台市

●時 期 平成29(2017)年9月29日~10月2日

●実施学年 2年生10クラス396名 引率者数16名

●日程概要

9月29日 伊丹空港→仙台空港→松島遊覧船(震災学習)→安比高原(泊)

9月30日 安比高原選択体験→奥州市入村式→各農家

10月1日 家業体験

10月2日 退村式→中尊寺見学→仙台市内自由研修→仙台空港→伊丹空港

東北修学旅行選定にあたって

要ないのでやめてしまいましょう。」私の前 度に1年間教頭として一緒に働いたが、民間 ければならない、当時のメンバーは知恵を絞 せるにはかなりの説得力のある案を作成しな 任の民間人校長の一言からそれは始まった。 私自身はこの校長と平成二八(2016)年 人ならではの視点がある。この校長を納得さ 修学旅行なんて意味があるのですか。」「必

度から、7年間のうち5度岩手県奥州市で民 を得なくなった経緯がある。原点回帰という 泊を実施してきた。そこに平成二三(201 経験から外せないということで一致してい 施していた。民泊の意義は実施し続けてきた 向を変え民泊と観光をセットに修学旅行を宝 を実施する案を作成した。 ことで東北地方民泊と、それに加え震災学習 1) 年3月11日の震災があり方面を変えざる た。本校はもともと平成一六(2004)年 検討は始まった。平成二三 (2011) 年度 則としてその方面に行くことをルールにして より沖縄・北海道・南九州・沖縄・長崎と方 め、平成二八(2016)年度から3年間原 平成二七(2015)年度に行き先を決

現地で学ぶ生きた震災学習と農業体験を通した地元の方との交流

幾度も震災直後に現地に足を運び、その様子 をメディアを通して全国発信していた前校長 もともと関東出身で東北大学に在籍してい 東北の震災を放送作家として

●重点を置いた活動

実感させたい。」と全面的に応援してくれる ことになった。 あの日を境に違う世界を生きていることを 「ぜひとも生徒たちに震災を学ばせたい。」

り組みをしている。 のことも踏まえ情報の授業でもこのような取 する能力を身につける授業を行っている。こ 校は「総合的な学習の時間」で、人前で発表 ゼンテーションソフトを使って発表する。本 設・景勝地などの情報を調べ、最終的にプレ ブページで東北の偉人・歴史・名産品・施 会と情報」の授業で、修学旅行についてウエ 本校の事前学習は

1年前から始まる。

災での実際の津波の映像を見せ、自然の驚異 れぞれの生徒たちに配布した。 からお手紙をいただいているので、それをそ 方が違う。それを意識し取組を実施した。 景色を見ても知識があるのとないのでは見え の先生から聞かせるということをした。同じ 世界遺産「中尊寺」に関連する話を、社会科 と被害の甚大さを実感させて、その時自分が 体何ができるのかを考えさせた。それと、 そして、出発前に学年集会を実施する。 また、実際に民泊でお世話になる農家の方

修学旅行の実施~とにかく盛りだくさん

一日目は二便に分かれて伊丹空港から仙台

リアルな話に生徒たちは息を飲む。文章にし 間の復興に対するエネルギーを感じたようだ 前に震災があったとは思えなかった。」とい 聞く迫力は、現場でしか体験できないもの の生活を取り戻すべく努力した方の生の声を に津波を体験してそこから立ち上がり、普段 いる。」淡々とした語り口ではあるが、その 自分は助かったがその波に飲み込まれた人も くなかった」1%。 った。「良かった」73%「ふつう」26% う生徒の感想があり、自然の脅威とともに人 きていることは素晴らしいと思った」「6年 様子を伺った。「家族全員が健康で元気で生 だ。移動中のバスでもガイドさんから震災の て後で読むと普通の話かもしれないが、実際 お話を聞く。「実際に津波がそこまで迫って、 島遊覧船に乗り込み、船の中で語り部さんの へと向かう。今日のメインは震災学習だ。松 **空港へ、そこからバスで移動し松島の遊覧船**



松島遊覧船での震災学習

張っていた。運営をした有志の生徒諸君本当 にお疲れ様。「良かった」92%「ふつう」7 後ホテルの大ホールを借りて全体でレクリエ せである。1時間という限られた枠の中で頑 ーションを行った。企画はすべて生徒にお任 次に宿泊地の安比高原へと向かった。夕食 「良くなかった」1%。

習である。天候に恵まれず雨の中でプログラ ムを強行したため満足度は昨年に比べると低 二日目午前中は安比高原での選択の体験学





安比高原 ボート

を作り、クラスごとに平泉・前 まりである。3人から5人の班 る。一番の取組である民泊の始

昼食を経て奥州市に移動す

沢・水沢・衣川・江刺・胆沢6

なかった」2%。

地区に分かれて入村式を行っ

だけ本校の職員の民泊に対する思い入れは強 と、最初は観光一日、おそるおそる1泊だけ 史は長い。その頃も在籍していた職員に聞く 年から実施している本校の民泊への取組の歴 の声が多く、民泊2泊に変えていった。それ Lはいらない。民泊2泊のほうがいい。」と ーンで実施していたところ、生徒から「TD 民泊をし、TDLに連れて行ってというパタ 庭へ旅立って行った。前述のように平成一六 た。期待と不安を抱えつつ各家

ということが分かった。大変なことが多いか 当たり5~10分ですべての家庭が回れる。こ んぼの稲刈りをするのは本当に大変なことだ 業は初めての体験である。「ほぼ毎日広い田 れもこの地区の売りである。生徒たちは農作 市の民泊は集落に農家が密集していて、一軒 クシーに分乗して各家庭を回っていく。奥州 三日目は一日中農業体験である。職員がタ

魚釣り

安比高原

とが起こってしまう。「良かっ するとどうしてもこのようなこ た」69%「ふつう」29%「良く 杯楽しんでいた。自然を相手に くなった。それでも生徒は精 る人はすごいと思った。」素直な生徒の感想 るかにしんどくて疲れた。それを毎日して とが分かった。」「農作業は思っているよりは らこそ、家族で協力しあって生活しているこ

た。」「田舎がとても好きになった。」「もう一 ろいろ教えてもらった。お別れがさみしかっ スに乗ってこない。「民泊で人のありがたみ のであるが涙々のお別れである。なかなかバ だなと思った。」の否定派の半々に分かれた。 と暇だった。」「携帯が無いと生きていけな が分かった。おじいちゃんおばあちゃんにい 生徒代表の挨拶を終えバスに乗り込む時間な い。」「やっぱりみんな携帯が無いとだめなん い一日を送れた。」の肯定派と、「携帯が無い 帯が無い分、友達との時間が大切にできた。 である。また、スマホの利用を制限した。 一意外と携帯が無くてもいけた。」「中身の濃 最終日いよいよ退村式である。農家代表、



農家での稲刈り体験

度行きたい。」ほとんどが肯定的な意見であ った。「良かった」89%「ふつう」10%「良 くなかった」1%。

印象に残ればこの経験が生きると思う。「良 財の見学はその時に良さがわからなくても、 見ていろいろ感じたことがあると思う。文化 建造物だと思って訪れた生徒もいた。本物を かった」59%「ふつう」40%「良くなかっ を撮り金色堂の見学をした。金色堂を巨大な 退村式を終え中尊寺に向かう。クラス写真

22%「良くなかった」4%。 地はありそう。「良かった」74%「ふつう」 間組に分かれる。食事の時間も含めているの ようだ。止むを得ない所もあるが、改善の余 所で計画どおりには、なかなかいかなかった 便に分かれるので活動時間2時間半組と4時 いけないという声もあった。初めて訪れる場 で、短時間の組は行きたいところがあったが べがものをいうところでもある。飛行機が2 最後は仙台市内観光である。出発前の下調

事後学習~楽しみながら振りかえる

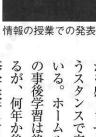
生徒に実感させた。 いかに伝えるか、文字にすることの難しさも った農家の方に手紙を書いた。感動や感謝を 帰ってきてからは、まず民泊でお世話にな

3泊4日で体験したものをひとつにまとめ る、本物の新聞の割り付けも参考に、班ごと それと班ごとに修学旅行新聞を作らせた。

> うに堅苦しいものではなく、楽しみながら振 りかえさせるプログラムである。 せて完成させた。感想文やレポート作成のよ い、どれを載せてどれを載せないか議論をさ に記事の割り付けから写真やイラストも使

修学旅行を終えて

るが、何年か後にまた うスタンスで実施して うよりは、様々な経験 こ盛りなのが本校の修 いる。ホームルームで を通して生徒自身に何 生徒に落とし込むとい る。一点重点でそれを すべてに力を入れてい 民泊も震災学習もと 学旅行である。体験も の事後学習は終えてい かを感じさせようとい とにかく企画がてん



う。そういう意味では事後学習は一生続くの である。 せ、再びかの地を訪れる生徒が現れればと思 修学旅行に思いを馳



思うところがあるので、最後に述べさせてい 管理職目線で申し訳ないが、民泊について

> 外のホームステイではホストファミリーに生 ておくべきだったかもしれない。 ていることを、生徒たちにもっと事前に伝え 徒もいる。差はあってもみんな歓迎してくれ のである。それと、どうしても家庭による差 としてどうかということが気になってしまう る。歓迎されすぎると、またそれは教育効果 が、歓待されすぎているようなところがあ 北の人たちのお人柄もあるのかもしれない 徒たちは家族として迎えられるが、民泊では ら感謝してもしきれない。気になる所は、 いている。また大変歓迎していただき、 が出てしまうところがあり不公平感を持つ生 お客として歓迎されているような感じで、東 にはお世話になり貴重な体験もさせていただ ただきたい。本当に奥州市の農家の皆さん方

職としては満足できないのである。 民泊の正解だというものは私にもわからな 民泊が単なる一時の流行で終わってほしくな は、動向を見守っていくしかないのだが、生 い。ただ、「良くなかった」が1%でも管理 いという気持ちが大きい。とはいえ、これが 徒たちの感動の深さを目の当たりにすると、 時期があった。民泊が今後どうなっていくか 大阪ではかつてスキー修学旅行が流行った

る努力は惜しんではいけないと思う。 る。ただ、修学旅行が続く限り意味を持たせ あるのですか。」これは、かなりの難問であ で、冒頭の前校長の「修学旅行なんて意味が ろいろな所に気軽に行けるようになった現代 格安旅行があり、交通の便が良くなってい

